

十一管本部とOISTが連携強化！

～ 業務協力に関する協定書の調印式を開催します～

第十一管区海上保安本部(以下、「当本部」という。)と沖縄科学技術大学院大学(以下、「OIST」という。)は、それぞれが実施する「漂流予測の精度向上に係る業務」と「沖縄周辺海域における潮汐モデル及び海洋シミュレーションの高度化に係る業務」について相互協力を図るため協定を締結します。

本業務協力により、沖縄周辺の複雑な流況予測の高度化が実現すれば、海洋レジャー、環境保全、海上運輸、漁業等様々な分野への貢献も期待されます。

調印式概要

【日 時】 平成24年3月27日(火) 10:30～11:00

【場 所】 那覇港湾合同庁舎(第十一管区海上保安本部) 5階会議室

【調 印 者】 第十一管区海上保安本部 本部長 眞嶋 洋
沖縄科学技術大学院大学 学長 ジョナサン・ドーファン

【背景・目的】

OIST海洋生態物理学ユニット(御手洗哲司准教授)は、沖縄周辺海域における潮汐モデル及び海洋シミュレーションの研究を実施しています。このモデルやシミュレーションを高度化するためには、実測の詳細な海底地形データや海流データ等が不可欠です。

当本部は海難発生時の搜索区域決定のために漂流予測を実施しています。この漂流予測の精度を向上させるためには、沖縄周辺海域のモデルやシミュレーションによる計算結果が不可欠です。一方で、マルチビーム測深機を使用した詳細な海底地形データや実測の海流データは着実に蓄積しつつあります。そこで、本業務協力により、OISTは「沖縄周辺海域における潮汐モデル及び海洋シミュレーションの高度化」が、当本部は「漂流予測の精度向上」が可能になると考えられるため、観測データの提供・シミュレーションの解析・検証、及び評価等を両機関が協力し実施することで、両機関の課題解決を目指します。

これにより、沖縄周辺の複雑な流況予測の高度化が実現すれば、海洋レジャー、環境保全、海上運輸、漁業等様々な分野への貢献も期待されます。

【出席予定者】

○第十一管区海上保安本部

眞嶋 洋 本部長、山崎 敏也 次長、檜垣 幸策 次長、春日 茂 次長、相馬 淳 警備救難企画調整官、古川 博康 海洋情報企画調整官、望月 成慶 救難課長

○沖縄科学技術大学院大学

ジョナサン・ドーファン学長、ロバート・バックマン上級副学長、御手洗 哲司 准教授、坂上 太一郎 技術員、名取 薫 メディアセクションリーダー

※取材を希望される方は、3月26日(月) 12:00までにご連絡ください。

【漂流予測業務】

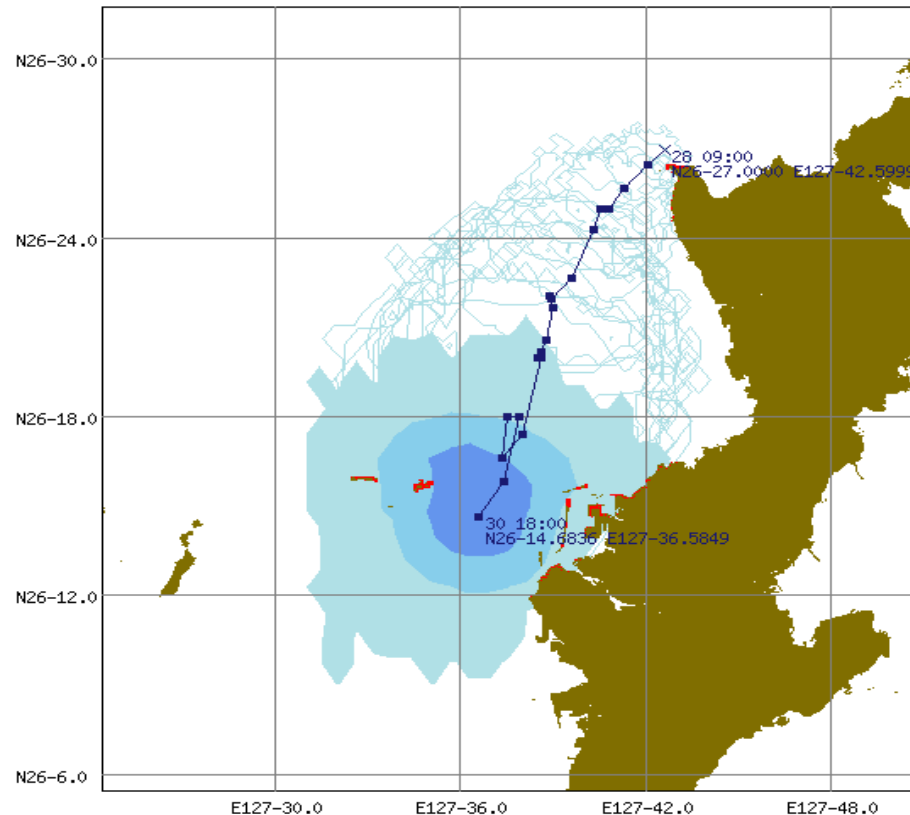
海上で事故が起きた際、当本部では巡視船や航空機等によりその対応を行っています。

例えば、船舶が転覆して乗組員が行方不明となった際の捜索、タンカーが座礁して海に大量の油が流出した際の対応などを行います。

これら捜索救助活動や防除活動を的確に行うために、当本部では、巡視船艇や測量船などで観測した流れを基に、海に投げ出された人や転覆船、浮流油がどのように流れるかを予測しています。

この漂流予測の精度が向上するよう海の流れのデータの高度化等に努めています。

【漂流予測結果例】



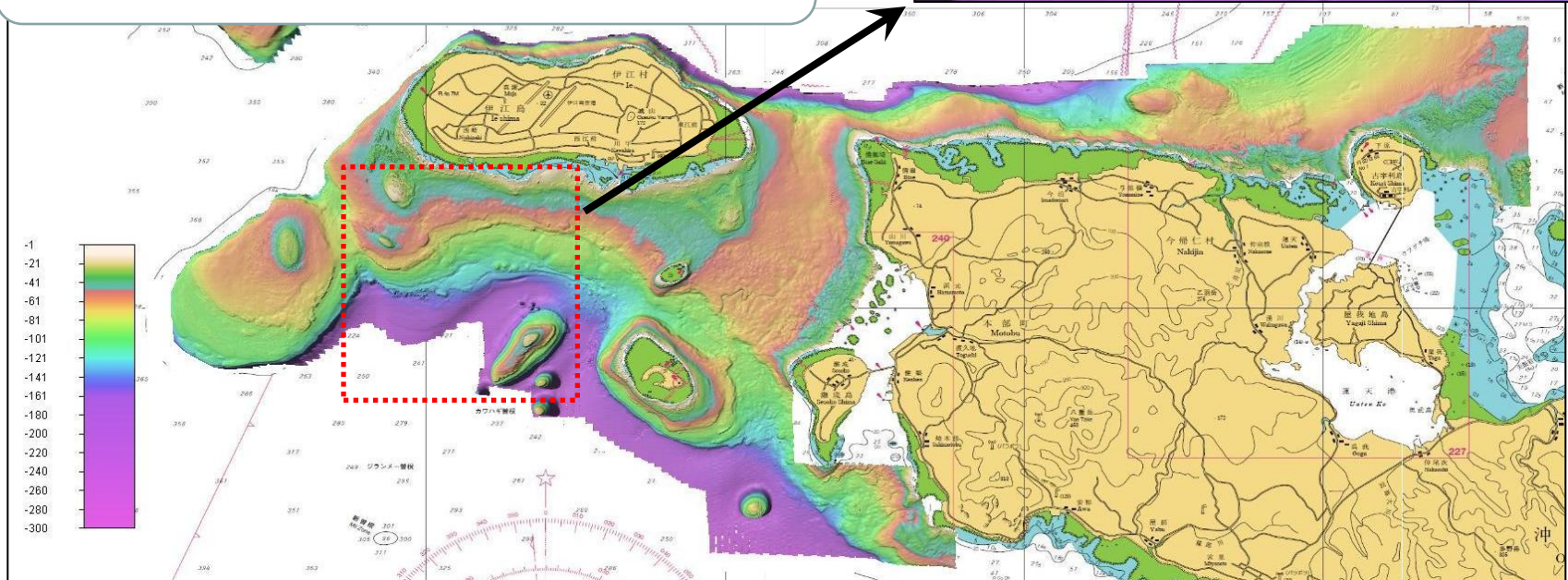
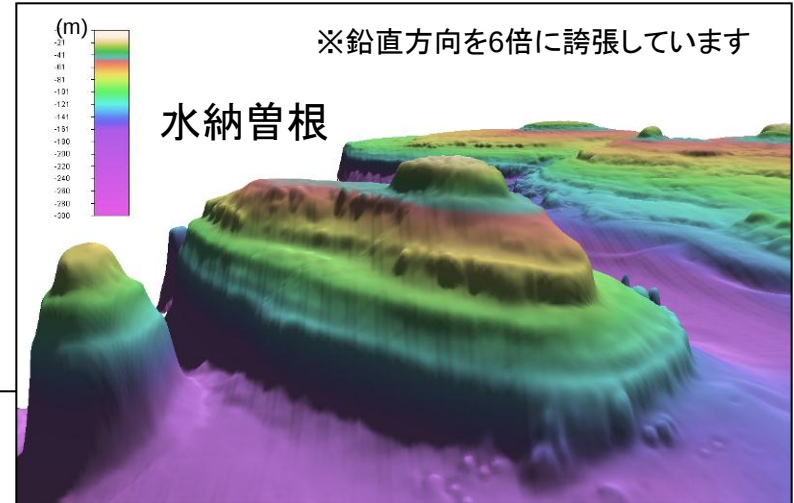
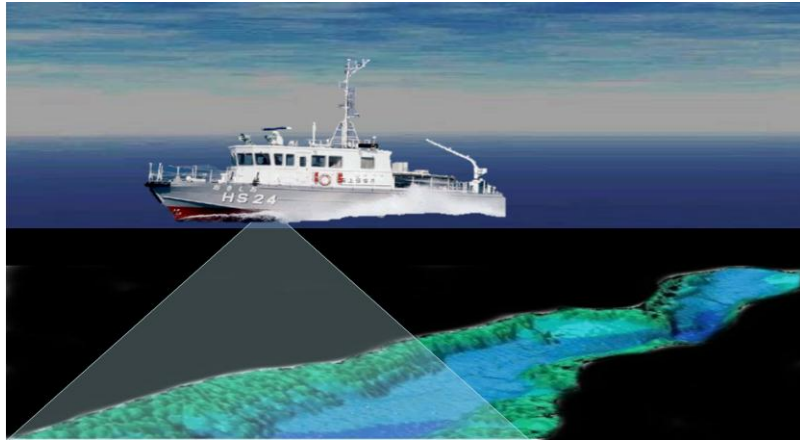
（図の説明）

- ・×印は漂流開始位置を示す
- ・×印から続く線は最も可能性の高い漂流経路を示す
- ・×印から続く線上にある●は漂流開始後の漂流物の4時間毎の位置を示す
- ・海岸線の赤い部分は漂着の可能性がある部分を示す
- ・水色の線は漂流範囲を示す
- ・水色で塗り潰されている部分は、予測終了時刻時点での漂流物の存在範囲を示し、色が濃いほど存在確率が高いことを示す。

【詳細な海底地形調査(昨年9月に記者発表した成果を例示)】

海上を安全に航行する上で必要な海図等を最新の状態に保つため、また、海洋権益保全のための基礎資料とするため、測量船「おきしお」に搭載したマルチビーム測深機等により詳細な海底地形調査を実施しています。

測量船「おきしお」と「マルチビーム測深」



【海の流れの観測】

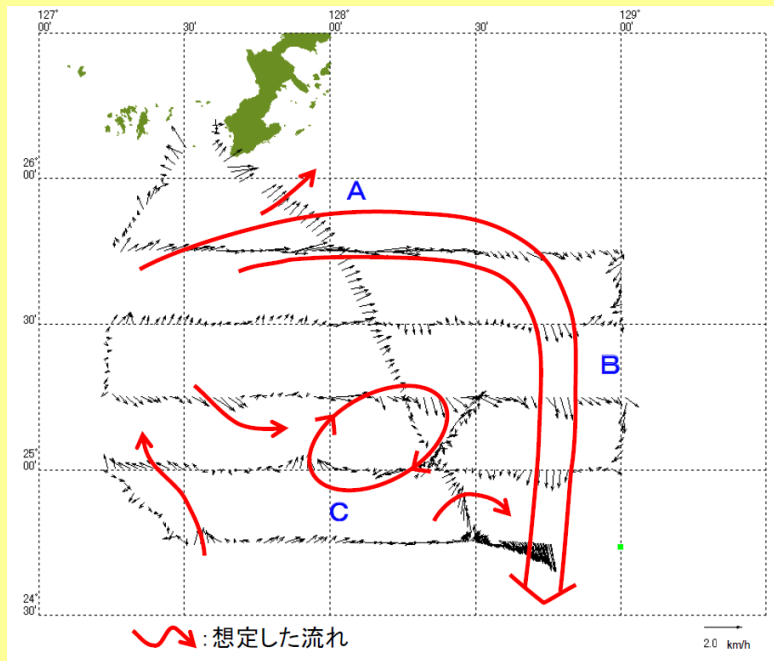
沖縄周辺海域で海の流れを調査し、得られた流れの情報は、航海安全や漂流予測のための基礎情報として活用しているほか、成果をマリンレジャー、海洋環境保全等のための情報としてインターネットで広く提供しています。

沖縄周辺海域の流れの調査(海流観測)

巡視船等に搭載された超音波流速計等で、管内の流れの情報を取得しています。

【平成24年1月に記者発表した成果を例示】

平成23年12月26日～12月28日の巡視船「くだか」により取得した海流データ

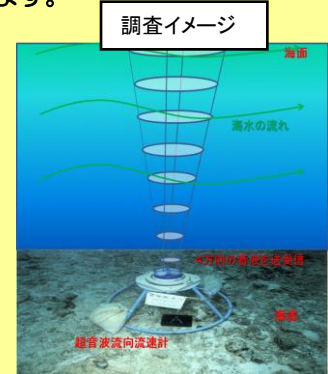
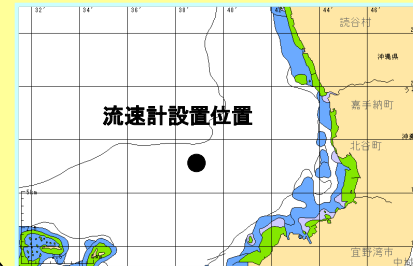


- ・流速1.8～2.8km/hの東向き(付図1に示す「A」)から南向き(付図1に示す「B」)に変わる流れが存在
- ・流速1.8km/h前後の渦が存在(付図1に示す「C」)

船舶輻輳海域での流れの調査(潮流観測)

船舶が輻輳する沿岸海域に、調査機器を設置し、15日以上の日夜連続で流れの調査を行っています。

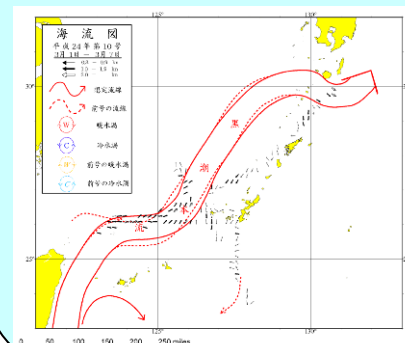
【平成23年度に調査した海域】



流れの情報の提供

ホームページで、流れの情報として「十一管区海洋速報」及び流れの推算情報を提供しています。

十一管区海洋速報例



流れの推算例

